

こだま

金沢大学附属図書館報 “こだま”

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp>

第179号
2013. 1

ISSN 0915-8782

CONTENTS

「第1回金沢大学附属図書館ECO学習コンクール」を開催 ……1
附属図書館の留学生支援—三大学連携事業を契機に— ……4
この秋の図書館の後援・共催・協力イベント (参加者コメント) ……6
海外大学図書館訪問記 ……8
金大生のための読書案内 ……9
KULiC-α活動報告／とぼろニュース／ 明後日朝顔プロジェクト金沢 ……10
いしかわ事業者版環境ISO登録/音声・拡大読書機設置/ 十全同窓会に感謝状贈呈/医学図書館増改築工事 ……11
図書館トピックス ……12

「第1回金沢大学附属図書館ECO学習コンクール」を開催

附属図書館では、環境学コレクションの関連イベントとして、「第1回金沢大学附属図書館ECO学習コンクール」(後援：金沢市教育委員会，協賛：日産自動車株式会社)を開催し，その表彰式を，11月3日(土・祝)に自然科学系図書館で行いました。

コンクールには，小学校部門44点，中学校部門19点，計63点の作品の応募があり，その中から，学長大賞(各1名)，日産大賞(各1名)，日産賞(各3名)，附属図書館長賞(各3名)の計16名の受賞者を決定し，13名の受賞者が表彰式に出席しました。

表彰式では，審査結果発表後，各賞の賞状・副賞の授与が行われました。引き続き，中村信一学長より，受賞者に対するお祝いの言葉が贈られました。柴田正良附属図書館長，日産自動車株式会社ゼロエミッション事業本部ZEV企画グループ牧野英治部長による講評後，大賞受賞者へのインタビューおよび記念撮影が行われ，和やかな雰囲気の中，表彰式は終了しました。



受賞者の皆さん
胸のリボンが
まぶしいです

表彰式の様子
おめでとう
ございます！



応募作品を
展示しました



当日は，自然科学系図書館の
環境学コレクションの見学
ツアーも行いました



大賞受賞作品の紹介

学 長 大 賞



【小学校部門】

金沢大学附属小学校6年 林腰 杏優 「大切にしたいMOTTAINAIの心」



「MOTTAINAI」という視点で、世界各国や金沢・七尾、自分の実践例まで、カラフルな写真や絵で表現してある作品です。審査では、一貫したテーマでありながら、幅広く調べてあるところが評価されました。将来の夢は「絵本作家」とのことで、楽しみです。



【中学校部門】

金沢市立紫錦台中学校1年 西尾 春人 「風力発電を探る」



風力発電の風車に注目して、豆電球を点灯させるという実験でした。提出作品では、グラフや写真、図を使用して、実験の経過や結果が、読む人にとっても分かりやすいように工夫されていました。羽の枚数や形を変えて、試行錯誤して実験を繰り返したことが評価されました。

日 産 大 賞



【小学校部門】

金沢大学附属小学校5年 宮武 知生 「なわとびで発電できるかな？」



大好きななわとびで発電しながら扇風機をまわすという実験でした。跳び方や発電機の装着場所を変えて、跳びつづけるという大変な実験でしたが、今回の実験をもとに更なるチャレンジをする意欲が感じられるところが評価されました。サッカーでも試してみたいとのことで、楽しみです。



【中学校部門】

金沢市立西南部中学校3年 竹下 満里奈 「千里浜におけるダイラタンシー」



「ダイラタンシー」(でんぷんを混ぜた水に力を加えると固くなる)という現象と、千里浜の関係を調べた実験です。浸食の防止対策が、ダイラタンシーの維持に有効かという考察までしているところが評価されました。これからも情報収集を継続して、対策を提案してほしいです。

受賞作品を以下のページで公開しています。力作ぞろいの作品をぜひご覧ください。

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/env/contest.html>

「第1回金沢大学附属図書館ECO学習コンクール」受賞者

賞名	部門	学校名/学年	名前	作品名
学長大賞	小学校	金沢大学附属小学校6年	林腰 杏優	大切にしたいMOTTAINAIの心
	中学校	金沢市立紫錦台中学校1年	西尾 春人	風力発電を探る
日産大賞	小学校	金沢大学附属小学校5年	宮武 知生	なわとびで発電できるかな？
	中学校	金沢市立西南部中学校3年	竹下満里奈	千里浜におけるダイラタンシー
日産賞	小学校	金沢市立中央小学校1年	谷本 風花	おおのしょうようすい「ほたるぼし」のほたるのかずしらべ
		金沢大学附属小学校5年	林 詩民	イタイイタイ病に迫る
		金沢市立大徳小学校2年	馬瀬 莉乃	ゴミのけんきゅう
	中学校	金沢市立野田中学校3年	土肥 裕花	食べ物で環境問題を解決するには？
		金沢市立西南部中学校2年	藤田進之助	犀川の水質調査について
		金沢市立高尾台中学校1年	山中 乙穂	日本における二酸化炭素排出量の推移と地球温暖化の対策について
附属図書館長賞	小学校	野々市市立館野小学校2年	垣内 奏希	はいざいをつかったファイヤードラゴンのつくりかた
		金沢大学附属小学校6年	川口慎太郎	日本の電力と太陽光発電
		金沢大学附属小学校3年	塩 恵里那	太陽パワー
	中学校	金沢市立紫錦台中学校3年	大野 将輝	風レンズによる風力発電の効率化
		金沢市立西南部中学校2年	北川 輝	エコは地球を護っているのか。壊しているのか。
		金沢市立小将町中学校3年	吉田 尚浩	クエン酸と重曹の吸熱反応を利用した夏用カイロ

実施スケジュール 今回が初めての試みということで、試行錯誤の連続でした。

5月	今年度の附属図書館の事業計画の一つとして「地域の小中学校と連携した活動の実施」を掲げる。	
6月	金沢市内の環境教育に熱心な小中学校を数校訪問し、企画を検討。	
7月	ECO学習コンクールの実施を決定 応募要項、チラシを作成 学長、理事等への企画説明 金沢市教育委員会への後援申請 日産自動車への協賛の申請 プレスリリース、募集開始 金沢市内の小中学校へのチラシ等の送付	 <p>コンクールのチラシ</p>
8月16～17日	コンクール応募対象の児童・生徒を対象に「何でも相談会」を開催 (中央図書館オープンスタジオ)	
10月19日	応募締め切り	
10月26日	審査会	
11月3日	表彰式	 <p>学生のサポートによって、夏休み中に「何でも相談会」を開催</p>

(情報企画課 専門職員 橋 洋平
情報企画課 雑誌・電子情報係 藤原恵理子)

附属図書館の留学生支援 — 三大学連携事業を契機に —

金沢大学の留学生数は平成21年度までは300人台半ばで推移していましたが、平成22年度には491人へと一気に増え、その後も500人前後を維持しています。

附属図書館では、増加する留学生への対応として、英文によるパンフレットの作成や英文ウェブサイトの構築、館内サインの英文併記等を行ってきました。

留学生アンケートの実施

平成24年6月21日に、金沢大学、名古屋大学、静岡大学の附属図書館で「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」を締結しました（詳細は次頁を参照）。

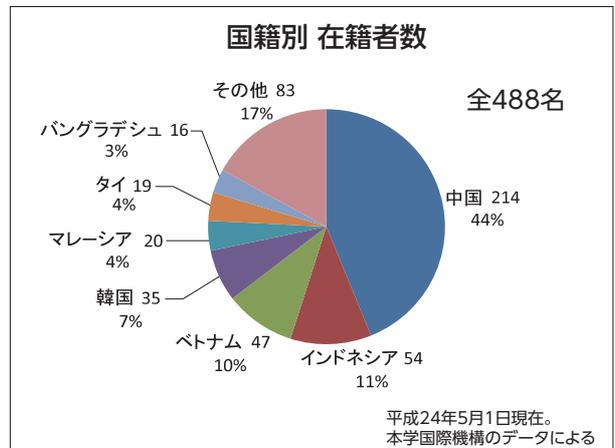
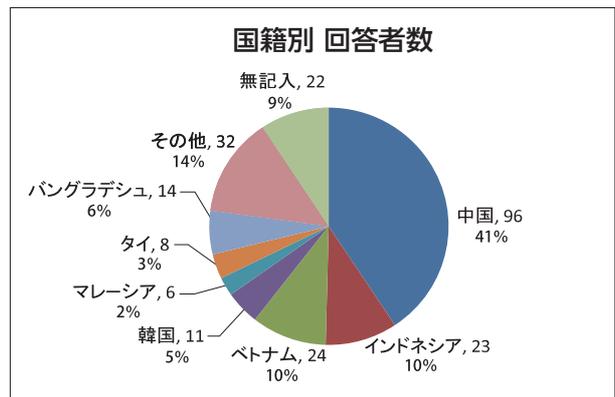
附属図書館は、この協定を契機として、留学生向けサービスの一層の充実に向け、6月から7月にかけて、全留学生を対象とするアンケートを行いました。

在籍する全留学生に対してアンケート用紙を配布し、回答率は48.3%でした。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

このアンケートから見てきた図書館サービスの大きな課題は、以下の2点でした。

- (1) 留学生に対するきめ細かな案内が十分でないこと
- (2) 英語資料に対する満足度が低いこと

さらに、利用可能な言語を尋ねた結果、「留学生の9割が英語、もしくは日本語を理解できる」ということがわかりました。金沢大学には各国からの学生が集まっていますが、まずは英語の案内を充実することが効率的であると言えます。



▶▶▶ アンケートの調査結果は、以下のサイトで公開しています。
<http://dSPACE.lib.kanazawa-u.ac.jp/dSPACE/handle/2297/33006>

留学生サービス向上への取り組み

アンケートの結果を受けて、附属図書館ではいくつかの取り組みを開始しています。

● 中央図書館ブックラウンジ内に PressDisplay 専用端末を設置（7月）

PressDisplay は、世界92カ国で発行されている48言語、1700紙以上の新聞がオリジナル紙面のまま利用できる新聞データベースです。学内のPCからインターネットで閲覧できますが、気軽に利用してもらおうと、中央図書館ブックラウンジ内の新聞コーナーにタッチパネル式の専用端末を設置しました。



- 留学生向けの中央図書館オリエンテーションを開催（10/29,11/1）

英語併記のスライドによる説明と館内ツアー。学生ボランティアによる通訳（英語、中国語）を付けたこともあり、参加した留学生には満足してもらうことができました。この説明会は来年度以降、自然科学系図書館、医学図書館へ拡大し、継続して行う予定です。

- 附属図書館の英文ウェブサイトの充実

英文情報をより探しやすくするための検討を開始しました。

- 英語資料等の充実

12月から、留学生からの図書リクエストを受け付ける企画を行っています。今回の企画では、英語だけでなく、その他の言語（主に母国語）の資料も募集対象としました。

その他にも、日本語教科書の提供方法の見直しや、副教材の購入など、本学の留学生センターとも連携しながら留学生向けの資料を充実させていきます。

学生イベントへの支援



ブックラウンジでの交流イベント

中央図書館内のブックラウンジはイベントスペースとしても利用されており、学生サークル主催の留学生交流イベントも頻繁に開催されています。キャンパス内の分かりやすく、集まりやすい場所（図書館）にあるスペースということで使ってもらえているようです。異文化コミュニケーションに興味がある日本人学生も多く、毎回賑わっています。このようなイベントを、今後も支えていきます。

金沢大学附属図書館は、日本人学生だけでなく、留学生にも満足してもらえる図書館を目指します。

(情報サービス課 専門職員 守本 瞬)

前号で、金沢大学、名古屋大学、静岡大学の三大学の附属図書館連携事業による海外の図書館調査について報告しました。

その後、この連携事業は協定を交わすまでに発展し、平成24年6月21日、「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」を締結するに至りました。

これら三大学の附属図書館には、ラーニング・コモンズという学習支援空間が設置されています。この協定は、ラーニング・コモンズを利用した学習支援をより効果的に行っていくために三大学で協力することを目的とし、金沢大学は、主として留学生に対する学習支援を担当します。

ラーニング・コモンズは、国内の大学で設置が進んでいますが、もっと有効に活用するにはどうすればよいか模索が続いています。この協定をもとに、三大学で協力して有効な活用方法を提案していく予定です。



この秋の附属図書館の後援・共催・協カイベント

この秋、附属図書館が支援してきたイベントに参加した学生さんの声を紹介します。

ビブリオバトル首都決戦2012 北陸地区予選・決戦（主催：北陸ビブリオバトル）

医薬保健学域保健学類1年 佐藤智美

（2012.9.30 しいのき迎賓館）

私はビブリオバトルの参加者募集を見て、初めてビブリオバトルを知りました。本の紹介をするなんて面白そう、聞いてみたい、と最初は思っていました。しかし、せっかくの機会だから、人前で話すという苦手を克服しようと思い、自分も参加することに決めました。

ビブリオバトルで私が一番おもしろかったのは、他の方による既読本の紹介でした。聞いていて、「えっ、そんなところを紹介するの？ 私だったら別の個所を取り上げるのに」と感じるが多々あり、これが読み方の違いなのだと実感しました。もちろん初めて知る本も多く、読んでみたいと思う本が増えました。

バトラーとして参加して感じたのは、本の魅力を伝えきれないもどかしさです。何と表現したらよいかわからない読後感を言葉にすることができず、また、この後に読む方の楽しみを奪うほどには内容は話したくありません。そうすると、ぼかしたような言い方になり、質問にもあいまいな答え方になってしまいます。ビブリオバトルではこの点に悩みました。

東京での首都決戦に参加することは、私はとても不安でした。ものすごい人たちが集まって、私は緊張して話せないのではないかと思いました。しかし実際は、皆優しい方ばかりで、ビブリオバトル後にも、どんな本を紹介したかについてお話ししたりと、有意義な時間になりました。私は決勝には進むことができませんでした。とても楽しい経験でした。

ビブリオバトルは想像するよりも難しくなく、バトラーでも聞き手でも楽しむことができます。参加者が多くなれば、それだけたくさん本や解釈と出会うことができ、楽しみが増えると思います。私も機会があれば、また参加してみたいと思っています。



企画展示「そうだ、金沢大学附属図書館へ行こう。～泉鏡花文学賞Week～」

人間社会学域経済学類3年 中川友梨

（2012.11.1～18 中央図書館）



平成24年11月1日～18日にMIU（ミュージアムイメージアップ委員会：金沢市内の文化施設のイメージアップを図るための大学生による委員会）の学生が中心となり「そうだ、金沢大学附属図書館へ行こう。～泉鏡花文学賞Week～」という企画展示を行いました。

そもそもこの展示は、本年度で5回目の開催となる泉鏡花フェスティバルに、より多くの若者を呼び込むことが目的でした。どうすれば大学生の興味を惹くことができるか。どうすれば泉鏡花の良さを若者に知ってもらえるか。この問題に対して私たちMIU

は、大学生の視点で本を選び、コメントや手作りの帯と共に展示することで泉鏡花を身近に感じられるようにしました。普段は読むことのないような本も、展示の仕方次第では面白そうと手にとってもらえるのではと考えたからです。また泉鏡花にまつわるモチーフの装飾を施したことにより、鏡花作品の雰囲気も味わえるように工夫しました。結果として多くの方が展示を見て下さったり本を借りて下さったりしたので、泉鏡花の魅力をうまく伝えることが出来たように思います。



またこの展示の企画・準備は、私たち自身が泉鏡花について勉強するきっかけともなりました。泉鏡花の作品が分かりやすく解説されている本を読んだり、泉鏡花記念館に足を運んだりすることで、堅物だった泉鏡花のイメージが徐々に緩和されていくのを実感しました。その意味でも、この展示の目的を達成できたのではないのでしょうか。

最後になりますが、図書館の職員の皆様、金沢市役所の皆様、その他ご協力して下さった皆様、この度は企画展示の準備にご協力して下さり本当にありがとうございました。

大学生のための読書講座：講師 作家・中村航さん（主催：金沢大学生協、読売新聞社、出版文化産業振興財団）
自然科学研究科機械科学専攻1年 山崎純平（2012.11.10 中央図書館）



昼食を片手に大学生協に貼られているポスターをなにげなく眺めていると、1枚気になるものがあった。それは「大学生のための読書講座」というポスターだった。主に、プロの作家さんを金大に招き講演していただく、といった内容であり、小説好き（といっても月に3,4冊程度の読書量）の僕は、そこらの落葉広葉樹に負けないくらいに高揚する。理系で文章力の乏しい僕は、どうやったらプロの小説家のように美しく流れるような文章を書くことができるのか聞けると思ったからだ。これはチャンスだ、と思いその日のうちに読書講座に応募した。

今回講師をしていただいた中村航さんは、数々の作品で受賞した経歴を持ち、『100回泣くこと』はベストセラーにもなっている実力のある作家さんである。実のところ中村さんの作品を読んだことがなかったのだが、以前より読みたいと思っていた『100回泣くこと』を読んでみると、美しく優しい文章のきれいな小説であることに深く感動した。まるで“月のきれいな夜に河原を散歩している”ような感覚に浸り、小説を読み進めることができる。ますますお会いしたいという気持ちがふくらんだ。

待ちに待った読書講座はとても有意義な時間だった。第一部では参加者がグループにわかれて自分のおすすめの小説を紹介するなど、読書に関する自由な会話を楽しんだ。参加者の読書に対する熱い思いをきくことは心地よかった。また、うれしいことに中村さんがグループに加わり共に読書談義をしたことは、とても貴重な体験となった。

第二部は中村航さんのトークタイムである。中村さんは自分の少年時代から小説家デビューまでの読書歴を語ってくれた。そこで質問する。「美しい文章を書く秘訣を教えてください」と。「私は文章が下手だ。だから何度も何度も推敲する」と答えが返ってきた。初めからうまく文章をかける人間はいない、プロも努力しているのだと知ることができた。いつかはプロの作家のように流暢にかつ美しい日本語を操れるように努力する、そう決意した。またこのような機会があれば是非参加したいと思う。

人間社会学域人文学類2年 佐藤孝美

私がこの読書会の存在を知ったのは、一本の電話です。大学生協の書籍部の発行する「読書のいずみ」の編集部の方から学生スタッフとして運営に参加しないかという話でした。

どういことをするか具体的に想像できず不安でしたが、数週間前から編集の方や出版社、新聞社の方々に混じって打ち合わせを行いました。宣伝方法から当日の流れまで、一つの行事のためにどんな準備も抜かりなく行われ、この会に参加する方々の鋭気には驚かされました。

当日はたくさんの参加者の方々と、好きな本や作家について語り合うことができ、好きなものを共有できる喜びを感じました。また、第二部のトークショーでは、インタビュアーとして実際に先生のお話を聞いたり質問をしたりしましたが、本のお話だけでなく、これからの人生のヒントや励ましのような温かいメッセージを受けとることができました。

初めて出会った作家さんが中村先生でよかったと思いました。またこのような機会があったら参加したいです。



海外大学図書館訪問記 ～アメリカ ロチェスター大学とジョージア工科大学～

資料の電子化が進む現代において、新たに発生する利用者のニーズをどのように把握し、その把握したニーズにどう応えているかを調査するため、10月に、アメリカにある2大学を訪問しました。

1. ロチェスター大学 (University of Rochester) ニューヨーク州ロチェスターにある私立大学

ロチェスター大学では利用者ニーズ把握のため、人類学者を起用し2003～2008年に様々な調査を行いました。今回は、その調査結果をもとに改装された Gleason Library を紹介します。

右の写真以外にも、より静かな環境を提供する「Quieter Study Room」や、ホワイトボードやスクリーンが設置されたグループ用のスタジオなどがあります。これらは全て学生の「1つのエリアに静かな場所、くつろげる場所、友達と議論できる場所といった様々なスペースが欲しい」といった要望を実現したものです。

現在ロチェスター大学図書館では学生に対して2回目の調査を行っています。今後、この図書館がどのように進化していくのか大変興味があるところです。



簡易な壁で囲まれた個人や少人数の学習のためのスペース



壁一面の大きなガラス窓



映画鑑賞や研究発表の練習が可能なシアタールーム

2. ジョージア工科大学 (Georgia Institute of Technology) ジョージア州アトランタにある州立大学

ジョージア工科大学では、多くの学生からの意見をもとに10年間にわたって図書館の改装を行ってきました。現在では、学習や研究の場所としての機能を重視した3つのエリアを提供しています。



に疲れた学生が、寝転んでくつろいでいます。

Clough Commons

1・2年生のための研究室やサポートデスク、マルチメディアスタジオ、コミュニケーションセンター等を設置。人工芝が敷かれたサンルーム



West Commons

見通しの良い広間に、約100台のパソコンを設置。利用者は好きなパソコンを、いつでも自由に使うことができます。

East Commons

可動式の机や椅子、屋根付きのパーティションを設置。1人で自習することも、大人数でグループ学習を行うこともできます。



今回訪問した2大学とも、利用者の意見や要望を反映した機能・サービスが提供されており、改めて利用者が何を求めているかを適切につかむことの必要性を感じました。

金沢大学附属図書館をより良く利用してもらうために、今回見学したことを活かしていきたいと思います。

*この調査は平成24年度国立大学図書館協議会海外派遣事業等により行われました。詳細な報告書は、「金沢大学学術情報リポジトリ：KURA」への掲載、及び「大学図書館研究」への投稿を予定しています。

(情報企画課 雑誌・電子情報係 川井奏美
情報企画課 図書情報係 野田晶子)



天野 良平 先生
(医薬保健研究域 保健学系)

「人は物語を生きる」

平成25年1月～ 中央図書館で展示中

第12回



教員から教員へ、リレー形式で続いている教員おすすめ図書コーナーは、今回で第12回を迎えました。今回バトンを受け取ってくださったのは医薬保健学域保健学系の天野良平先生です。

どんな本でもいい、まずは「身近な」一冊を読むことだ。

年を経て、本を読むことが益々楽しくなってきた。実は、小中高等学校の頃、国語が大の苦手科目で、教材の短い「話」（多くは有名な著作のごく一部）を読んで、「著者は何を言いたいのか」「それとは何をさすか」「文の構成は」など問われても、どれもよく分からなかった。当時思っていた。「何で著者がそんなことまで考えたって言えるの」「何でこんな難しい言い方するの」と。とにかく教材の「話」が私には面白くなかった。凄く残念な思いである。

しかし、大学に入った頃から少し様子が変わってきて、教養部の頃は文系科目も面白く、その日の講義で聞いた本を読んだりして結構充実していた。試験やレポートも、「何々について述べよ」といった類の設定が多く、十分に楽しむ境地まで論ずることが出来た。この頃の「本の読み方」が結構に役立っている。学生は一冊一冊をちゃんと初めから終わりまで読むことが大事だと思っている。学生時代の私のような学生もいるかと思うこの原稿を書くことにした。

私の一冊は『トロッコ（芥川龍之介著）』である。冒頭を暗唱できる。多くの人には『土佐日記』『草枕』の冒頭は言えるだろうが、『トロッコ』はそれほどではないだろう。私には冒頭が身近であるということで忘れないで覚えている。何度も読んでいます。何らかの取っ掛かりがあれば、その人が本を読む動機となる。

敢えて言う。「本に書いてある大抵のことを我々は経験する」と。

最近、本当にそう思っている。以前は、本の中で起こっていることはほとんど別世界で自分とは全く関係のないことだ、本を読んで疑似体験して楽しむんだと思っていた。残念なことに、私には、「本の世界だけだったらそんなの知らんでもいいや」と思ってしまうところがあった（勿論、ファンタジーや到底起り得ないようなフィクションの世界に魅せられ、それを本で楽しむ多くの人がいることも十分承知している）。ところが分かってきた。本の世界と思っていたことが身近な現実が起こっている、それ以上に劇的で面白い、可笑しい、悲しいことがあるということが。

すると、本を読むのが楽しくなってきた。本の中

の物語が身近なのだ。身近な人の人生が本の中の物語と共鳴することがある。人生が物語化されていくよう思うのだ。

「日記」「自伝」「私小説」に、あなたが身近に感じられるような一冊があるかもしれない。

「日記」には、それほど注目されていない人の日記であれ文豪の日記であれ、発露される作者の個性的な声に、突然に親近感を抱くような感動的な出会いがあり、読む者が、そこに自らの人生との一体感と納得感を得る、そんなことがあると思う。

「自伝」「私小説」で同じ郷里や同じ専門の著者のものを一冊選ぶのもいい。また同じ境遇や体験（洋行記など）の一冊もいいかもしれない。その中にはその人の人生があり、感動の物語がある。さらに物語の情景、時代と場所、人々の心理、その描写は見事で、読ませてくれる。読者が自らを投影しながら本を読むとき、本は人が物語をどう生ききるかのヒントを与えてくれると思う。

最近、「聞き書き」活動として市井の人の話を聞く機会を持っている。誰にも物語はある。手にする本は「読める」物語となっている。「読める」「読みたい」ものの知恵も本の中にある。

	書名 著者、出版事項
1	蜘蛛の糸・杜子春・トロッコ他十七篇 芥川龍之介著、岩波書店、1990
2-3	百代の過客 日記にみる日本人/百代の過客<続>日記にみる日本人 ドナルド・キーン著、講談社、2011-12
4	モッキンボット師の後始末 井上ひさし著、講談社、1974
5	絵のある自伝 安野光雅著、文藝春秋、2011
6	口語訳即興詩人 安野光雅著；アンデルセン原作；森鷗外文語訳、山川出版社、2010
7	のり平のパーッといきましょ 三木のり平著；小田豊二聞き書き、小学館、2002
8	どこかで誰かが見ていてくれる:日本一の斬られ役福本清三 福本清三著；小田豊二著、集英社、2003
9-10	手業に学べ(技)(心) 塩野米松著、筑摩書房、2011
11	第2図書係補佐 又吉直樹著、幻冬舎、2011

おすすめ図書紹介文の全文は、展示コーナーの他に、図書館Webサイトの次のページでもご覧いただけます。

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/portal/osusume/1301amano.html>

KULiC-α 活動報告

2012年7月～12月

オープンスタジオでの活動

ワークショップ、セミナー等の開催

- 7月17日～20日 これさえ知ればレポート作成も怖くない：レポート作成基礎講座
- 10月22日～24日 卒論作成，レポート作成に役立つ！文献収集法講座＆お探し文献相談会
- 11月15日 レポート作成に絶対役立つ情報収集：ジャパンナレッジ講習会
- 11月10日 大学生のための読書講座 講師：中村航さん（協力行事）
（詳細はp.7参照）

ブックラウンジでの活動

ブックラウンジでのイベント

今期、図書館主催・共催イベントはありませんでしたが、留学生との交流イベントや報告会、ピアノの会コンサート（金大祭）が行われました。

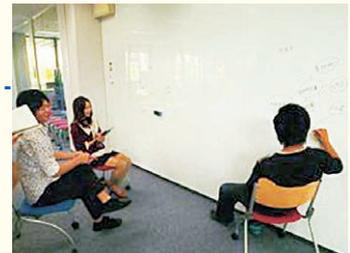
ギャラリーαでの展示

- 7月2日～7月16日 「舞台芸術活性化プロジェクト」（SSA Student Stage Art）
- 7月17日～8月3日 「写真部学外展示Pickup」（写真部）
- 7月23日～8月17日 「マイコンペ電子工作展」（理工学域学生）
- 8月9日～8月10日 「“ほらサポ”展2012」（ボランティアさぼーとステーション）
- 9月18日～9月28日 「ビブリオバトル2012スライド上映」
- 12月10日～12月21日 「ホンマでっか！？世界」（Oxford club 金沢）
- 12月12日～12月27日 「梅田家資料の全貌」（資料館）

オープンスタジオのホワイトボード

中央図書館3階オープンスタジオの壁面が、AV室側、グループスタジオ側ともに、ホワイトボードになりました。

壁いっぱいを使えますので、発想が広がるのに合わせてどんどん書き加えていくことができます。プロジェクターを投影してその上から書きこむこともできます。複数の人が同時に書くこともできます。



図書館学生ボランティア とぼらニュース

「とぼら」は金沢大学附属図書館学生ボランティアの愛称です。

今期、映画会や選書ツアーを行いました。選書ツアーで選んだ本は中央図書館ブックラウンジの「ほん和か文庫」に並んでいます。気軽に読める本を選びました。コーヒー片手にいかがでしょうか。

*とぼらの活動に興味があれば…毎週火曜日のお昼休み、オープンスタジオでミーティングをしています。気軽に声をかけてみてください。



選書ツアーの様子



「第4回明後日朝顔プロジェクト金沢 in 金沢大学中央図書館」 収穫祭（10/12）

5月の種植式から始まった「第4回明後日朝顔プロジェクト」の集大成である「収穫祭」を、10月12日に中央図書館で実施しました。今年は朝顔の生育が心配されましたが、収穫祭には、学生、職員の他学外参加者を含め約40名の方々に参加いただき、大学会館横コンコースの朝顔を含め5.5kgの種子を収穫することができました。



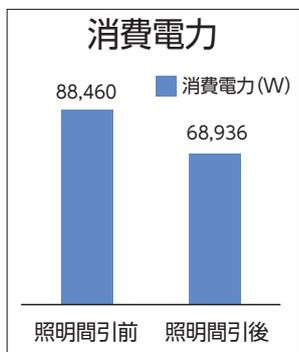
また、毎年恒例の朝顔の蔓による巨大リースは、今年は直径1.5mの輪に、参加者それぞれが工夫を凝らした黄色やオレンジのハロウィンバージョンの飾り付けをした後、附属図書館の玄関に飾りました。朝顔のリースは、季節に合わせて飾り付けを変えておりますので、中央図書館にお越しの際には、ぜひ朝顔リースの変化もご覧いただければと思います。



（情報企画課 総務係 大板聡子）

「いしかわ事業者版環境ISO登録」(7/12)

7月12日、いしかわ事業者版環境ISO登録事業所として石川県の登録を受けたのを機に、行動計画に従って継続的に環境保全活動に取り組み、省エネ、資源有効利用の推進、環境への負荷の少ない商品の購入等に取り組んでいます。



今夏は、まず中央図書館棟で照明の間引きによる節電を行い、約19,500W(22%)の消費電力の削減を行いました。また、コピー紙の裏紙使用を積極的に推進しています。

金沢大学の第二期中期目標「環境問題への積極的な取組から、良好なキャンパス環境を形成する」を実現するため、附属図書館はこれからも環境保全活動を続けていきます。

(情報企画課 総務係 大板聡子)

金沢大学附属図書館は
いしかわ事業者版環境ISO
に登録しています

環境負荷の低減目標

- * 二酸化炭素排出量の削減
- * 廃棄物の適正管理と排出量の削減
- * コピー用紙使用量の削減
- * 水使用量の削減
- * グリーン購入を徹底

金沢大学附属図書館

資源の節約のために裏面を活用しています。
ご協力ください。

金沢大学附属図書館は『いしかわ事業者版環境ISO』に取り組んでいます。

↑裏紙活用のためのスタンプ

中央図書館に「音声・拡大読書機」を設置しました(11/21)

平成24年度大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」の障がい学生支援等事業の一環として、視覚障がい者などが使用する音声・拡大読書機を設置しました。この読書機では、印刷された活字文字の音声読み上げ、画面での拡大が可能のほか、読み取ったデータを保存して、繰り返しの学習にも役立てることができます。12月には自然科学系図書館にも設置しました。医学図書館にも新装オープンと同時に設置します。

(情報サービス課 中央図書館係 押見智美)



医学図書館増改築工事への寄附に対する感謝状贈呈式(11/21)

11月21日、医学図書館の増改築工事にあたり金沢大学医学部十全同窓会からの多大な寄附に対して、感謝状を贈呈しました。

贈呈式に際して、中村信一学長が、「今回の寄附金で、貴重資料室および多目的スタジオの整備を行い、両室に「十全」の名を冠して大切にに使わせていただきたい。また、今後も引き続き、後輩に対するご指導・ご支援を賜りたい。」と挨拶されたのに対し、佐藤保金沢大学



医学部十全同窓会会長と加藤聖同窓会理事長は、「「十全」の名を冠していただけることは光栄です。整備された各室は、長きにわたり後輩の皆さんに有効に使っていただきたい。」と応えられました。(情報企画課 総務係 大板聡子)



シリーズ 医学図書館増改築工事

医学図書館の増改築工事もいよいよ終盤となりました。
みなさんに新しい図書館の姿をお見せできる日も間近です♪

新館への引越に伴う臨時休館の日程は下記の通りです。

臨時休館：2月16日(土)～3月14日(木)

3月15日(金) リニューアルオープンです!



この日、建物を覆っていたシートが、ほぼ取り外されました。



2012.12.10撮影



図書館

トピックス

7/25 教育著作権セミナー

放送大学学園との共催で「教育著作権セミナー」を自然科学系図書館 AVホールで開催しました。

著作権制度の概要、大学教育における著作権の利用、ICT活用教育推進における著作権の課題などについて解説があり、後半には活発な質疑応答が行われました。

7/5, 9/25~9/27 中学生キャリア体験受入

中学生キャリア体験のため、7月5日に金沢市立浅野川中学校の生徒3名が、9月25日~27日には金沢市立泉中学校の生徒3名が中央図書館へ来館し、大学図書館の様々な業務を幅広く体験しました。

参加者からは、「普段できないことばかりで楽しかった」「大人の仕事を体験し、これからのことについて学べたと思う」といった感想がありました。



8/9~8/10 オープンキャンパス 2012 サマーアドベンチャー&教科書展(中央図書館)

オープンキャンパスにあわせ、「図書館内のチェックポイントをまわってクイズに答え、「ほんとかふえ。」のチケットをゲットする」サマーアドベンチャーと、シラバスに掲載されている教科書の展示を行いました。

サマーアドベンチャーの参加者は両日で計273名でした。「素晴らしい図書館」が志望校を選択するポイントになることを期待します。



10/18 Web of Science・EndNote 説明会

自然科学系図書館AVホール及び医学類B棟小会議室で計2回の説明会を開催し、計23名の参加がありました。今年度の講習会では論文管理ツール「EndNote Web」について詳細な説明もあり、参加者からも多くの質問が寄せられました。

11/12~11/15 第4回ブックリユース市(中央図書館)

ブックリユース市は、本学の学生・教職員の不要になった図書(私物)等を展示し、学内外での再利用を図るための企画です。

第4回を迎えた今回は約2,200冊を提供し、約1,800冊の図書が新しい持ち主に引き取られていきました。



資料展示

*すべて中央図書館での展示

- オリンピックの地に見るイギリス文学 (7月30日~8月31日)
- 外国語教育センター語学教材特別展 (10月5日~25日)
- そうだ金沢大学附属図書館へ行こう~泉鏡花文学賞week (11月1日~18日)
- 金沢大学人間社会研究叢書 (11月6日~12月7日)
- グリム童話誕生200年展 (12月10日~26日)
- ビブリオバトルで紹介された本 (12月12日~)



ランチョンセミナーで開催中のビブリオバトルにあわせ、週替わりで展示

編集後記

今号のこだまで、図書館の活動が多岐にわたっていることを皆さんにも感じてもらえたのではないのでしょうか。すべての活動は、教職員、学生、地域の方々に図書館やその資料を有効に活用してほしいとの思いから出発しています。興味のあるイベントや話題を入口にして、自分にあった活用法を見つけてくださいね!

広報委員会メンバー

村田勝俊 守本 瞬 池上佳芳里 館正裕樹
瀧口玲子 藤原恵理子 大板聡子 押見智美

金沢大学附属図書館報「こだま」第179号

平成25年1月31日発行 発行：金沢大学附属図書館
編集：広報委員会 印刷：株式会社 橋本確文堂
〒920-1192 金沢市角間町 TEL：076-264-5200
E-mail：etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp

*この印刷物は再生紙を利用しています。